

# 平成17年度病虫害発生予察 予報第2号

平成17年5月16日  
長崎県病虫害防除所長

【気象（平成17年5月13日発表 1か月予報 福岡管区气象台）】

九州北部地方では、天気は数日の周期で変わるでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間はいずれも平年並でしょう。

週別の気温は、1週目は平年並、2週目は平年並か高く、3～4週目は平年並か低いでしょう。

要素別確率 単位（％）

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	30	40	30
降水量	30	40	30
日照時間	30	40	30

\* 予報対象地域：九州北部地域

向こう1か月間における主な病虫害の発生動向は次のように予想されます。

【予報の概要】

農作物名	病虫害名	発生程度	
		現況	予想
早期水稲	いもち病(葉いもち) イネミズゾウムシ	並 やや少	並 やや少
いちご (育苗床)	うどんこ病 炭疽病 ハダニ類	やや少 やや少 多	やや少 やや少 多
かんきつ	そうか病 かいよう病 黒点病 ミカンハダニ チャノキイロアザミウマ ヤノネカイガラムシ	やや少 並 少 並 やや少	やや少 やや多 並 少 並 やや少
びわ	がんしゅ病 ナシヒメシンクイ	やや多 並	やや多 並
なし	黒星病 アブラムシ類	やや少 やや少	やや少 やや少
ぶどう	黒とう病	やや少	やや少
果樹共通	果樹カメムシ類	やや少	やや少
茶	炭疽病 カンザワハダニ クワシロカイガラムシ	並 並 やや多	並 並 やや多

【早期水稲】 ( )内は平年値 [以下同じ]

## 1. いもち病(葉いもち)

### 1) 予報内容

発生程度 並

### 2) 予報の根拠

(1) 5月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

- (2) 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

## 2. イネミズゾウムシ

### 1) 予報内容

発生程度 やや少

### 2) 予報の根拠

- (1) 5月上旬の巡回調査の結果、食害株率は2.5%(5.3%)、1株当たり寄生虫数は0.01頭(0.00頭)であった。

- (2) 5月3半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、食害株率は25.0%(40.3%)、成虫の寄生は認めなかった(1株当たり寄生虫数0.01頭)。

## 【いちご】

### 1. うどんこ病

#### 1) 予報内容

発生程度 やや少

#### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発病株率0.9%(5.4%)、発生圃場数は30筆中6筆であった。

### 2. 炭疽病

#### 1) 予報内容

発生程度 やや少

#### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、*C. acutatum*(通称:葉枯炭疽病)の発生は認めなかった(0.1%)。また、*G. cingulata*の発生も認めなかった(発生を認めない)。

### 3. ハダニ類

#### 1) 予報内容

発生程度 多

#### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は7.5%(1.1%)、発生圃場数は30筆中18筆であった。

#### 3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発生初期に防除する。

- (2) 薬剤のかけむらがあると防除効果が落ちるので、葉裏まで十分に付着するように散布する。

- (3) 薬剤感受性が低下しやすいので、同一系統の薬剤は連用しない。

## 【かんきつ】

### 1. そうか病

#### 1) 予報内容

発生程度 やや少

#### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発病を認めなかった(発病葉率0.1%)。

#### 3) 防除上注意すべき事項

春葉での発病が見られる圃場では、果実への感染を防ぐために幼果期の防除を実施する。

### 2. かいよう病

#### 1) 予報内容

発生程度 やや多

#### 2) 予報の根拠

- ( 1 ) 5月上旬の巡回調査の結果、発病を認めなかった(発生を認めない)。
- ( 2 ) 越冬病斑は平年よりやや多い。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - ( 1 ) 発病枝や葉を除去する。
  - ( 2 ) 強風による傷から感染しやすいので、今後の気象状況に注意し、強風雨があった場合は、直後に薬剤散布を行う。

### 3. 黒点病

- 1) 予報内容
  - 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
  - 向こう1か月の降水量は平年並の見込みである。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - 薬剤散布間隔は今後の降水量によって決まるので降雨状況には十分に注意する。

### 4. ミカンハダニ

- 1) 予報内容
  - 発生程度 少
- 2) 予報の根拠
  - 5月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.1%(2.9%)、発生圃場数は39筆中2筆であった。

### 5. チャノキイロアザミウマ

- 1) 予報内容
  - 発生程度 並
- 2) 予報の根拠
  - 黄色粘着トラップ(諫早市)による誘殺量は、平年並で推移している。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - ( 1 ) 下表の予測発生ピーク日を中心に薬剤散布による防除を行う。
  - ( 2 ) ただし、発生が多い圃場では1果当たりの寄生虫数が、0.1頭に達する前に防除を行う。
  - ( 3 ) 茶、かき、ぶどう、イヌマキなどから移動して加害することがあるので、それらでの発生にも注意する。

表 チャノキイロアザミウマ発生予測プログラムによる第2世代成虫の予測発生ピーク日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
発生ピーク	6/11	6/11	6/15	6/9	6/12	6/13	6/9	6/9

- 注1: 発生ピーク日は各地区の選果場がある地点で算出している。
- 注2: プログラムに使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュを利用。
- 注3: 同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

### 6. ヤノネカイガラムシ

- 1) 予報内容
  - 発生程度 やや少
- 2) 予報の根拠
  - 県予察圃場での調査の結果、発生を認めなかった(寄生葉率 0.0%)。
- 3) 防除上注意すべき事項
  - 各地区の防除適期は、アプロード水和剤(フロアブル)では下表の予測初発日の25日後頃、有機リン剤では40日後頃である。

表 ヤノネカイガラムシの第1世代1令幼虫予測初発日

地区名	多良見 元船	長与 吉無田	西彼 大串	諫早 川内	大村 小路口	佐世保 早岐	国見 神代	北有馬 谷川
初発日	5/11	5/10	5/12	5/10	5/11	5/12	5/10	5/9

注1：各地区の選果場がある地点で算出している。

注2：ながさき農林業情報システム病害虫発生メッシュを利用して予測。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

【びわ】

1. がんしゅ病

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発病枝葉率は6.5% (1.0%)、発生圃場数は10筆中10筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤散布は、収穫直後早めに行う。

2. ナシヒメシンクイ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

フェロモントラップによる調査の結果(諫早市)、越冬世代成虫の発生量は平年並であった(4月1半旬～5月2半旬の誘殺量 本年43頭、平成7～16年の平均27.1頭)。

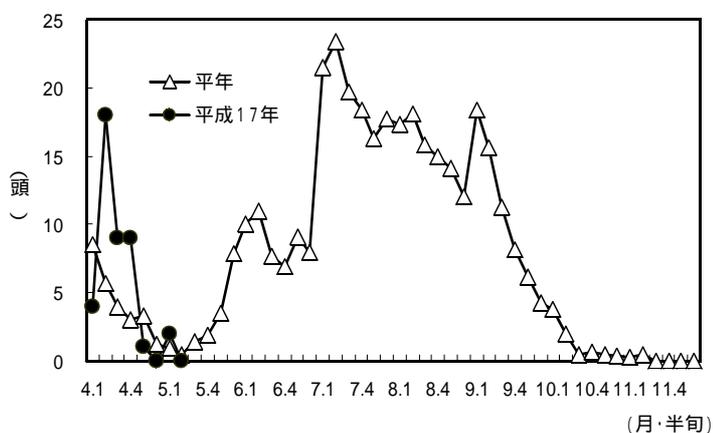


図 ナシヒメシンクイの誘殺状況(諫早：フェロモントラップ)  
\* 平年値は平成7～16年の平均

【なし】

1. 黒星病

1) 予報内容

発生程度 やや少

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発病葉率は0.1% (0.3%)、発生圃場数は12筆中4筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

薬剤感受性の低下を防ぐため、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。また、DMI剤は年間3回以内の散布に抑える。

## 2. アブラムシ類

### 1) 予報内容

発生程度 やや少

### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生新梢率0.7%(2.5%)、発生圃場数は12筆中3筆であった。

## 【ぶどう】

### 1. 黒とう病

#### 1) 予報内容

発生程度 やや少

#### 2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.2%)。

## 【果樹共通】

### 1. 果樹カメムシ類

#### 1) 予報内容

発生程度 やや少

#### 2) 予報の根拠

- (1) 諫早市及び多良見町のフェロモントラップ及び西彼町の予察灯での誘殺量は4月以降少ない発生量で推移している(図)、(表)。  
 (2) 有家町のフェロモントラップでは、4月第4半句以降、1半句当たり16頭程度の誘殺量がある(表)。

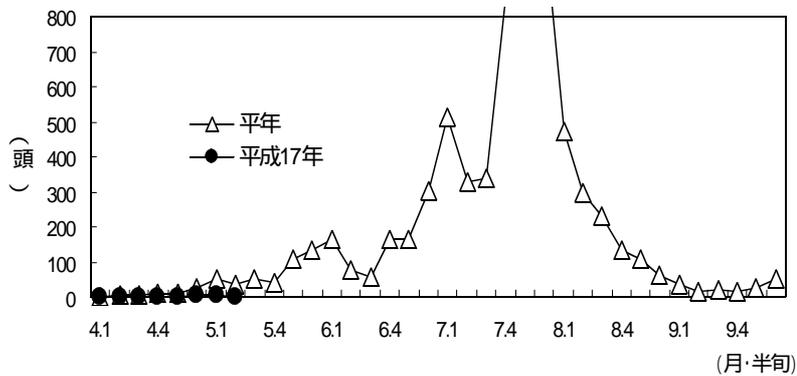


図 チャバネアオカメムシ・ツアアオカメムシの誘殺状況(諫早:黄色コナール)  
 \*平年値は平成7~16年の平均

表 チャバネアオカメムシ、ツアアオカメムシの誘殺状況(西彼:予察灯、多良見・有家:黄色コナール)  
 (月・半句、頭)

	4.1	4.2	4.3	4.4	4.5	4.6	5.1	5.2
西 彼	-	-	-	-	-	-	1	0
多良見	0	0	0	1	0	2	0	0
有 家	0	5	0	9	1	48	9	12

3) 防除上注意すべき事項

発生が少なくほとんどの地域では防除の必要はないが、有家町ではやや発生が目立つのでなし園では注意する。

【茶】

1. 炭疽病

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、発病を認めなかった（発病葉数 0.1 / m<sup>2</sup>）。

2. カンザワハダニ

1) 予報内容

発生程度 並

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生葉率は0.8%（1.6%）、発生圃場数は20筆中4筆であった。

3. クワシロカイガラムシ

1) 予報内容

発生程度 やや多

2) 予報の根拠

5月上旬の巡回調査の結果、寄生株率は13.3%（7.8%）、発生圃場数は20筆中11筆であった。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 本虫は年3回（5月中旬～下旬、7月下旬～8月上旬、9月中旬～下旬）に発生するが、そのうち5月のふ化直後の薬剤散布が最も重要である。

(2) 1回脱皮してロウ質のカイガラを作りはじめると薬剤の効果が低下するので、下表のふ化盛期予測ピーク日を中心に散布する。なお、独自にピーク日を現地調査し防除適期を判断している地域ではその判断を優先する。

(3) 株内の枝や株元に薬液がかかるように十分量散布する。

表 「有効積算温度則による防除適期予測法」によるクワシロカイガラムシのふ化盛期予測ピーク日

地区名	東彼杵赤木	東彼杵太の原	世知原板山	世知原木浦原	五島大津
平成17年	5 / 17	5 / 26	5 / 26	5 / 22	5 / 12
平成16年	5 / 12	5 / 22	5 / 23	5 / 17	5 / 7

注1：使用する気温データには、ながさき農林業情報システム500mメッシュ気象データを利用した。

注2：平成17年は5月12日現在で予測し（1月1日～5月12日まで実測値）、13日以降のデータは平年値を利用した。

注3：同一地区内でも標高や土地条件で発生ピーク日が異なるので注意する。

「農薬使用基準の遵守について」

農薬を使用する際には、必ず農薬のラベルをよく読み、使用基準（適用作物、適用病害虫、使用濃度、使用量、使用時期、総使用回数）及び使用上の注意事項を守って、適正に使いましょう。